

注 意 報

8 病 第 2 0 号
令和 8 年 8 月 2 1 日

関係各位

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので送付します。

病虫害発生予察注意報第 5 号

- 1 作物名 水稻（中晩生：ヒノヒカリ、京の輝き、祝、新羽二重糯）
- 2 病虫害名 穂いもち
- 3 発生地域 府内全域
- 4 発生時期 穂ばらみ期～穂揃期まで
- 5 発生量 平年比やや多い
- 6 注意報発令の根拠
 - (1) 8 月中旬に行った巡回調査の結果、穂いもちの発生は平年比多い（＋）（表 1）。
 - (2) 8 月中旬に行った巡回調査の結果、穂いもちの発生は平年並（表 2）。
 - (3) 箱施用薬剤の効果が低下する時期を迎えている（＋）。
 - (4) 向こう 1 か月の気温は平年比高く、降水量は太平洋側では平年並か少なく、日本海側では少なく、日照時間は太平洋側では平年並、日本海側では平年並か多いと予想されている
(一)（8 月 1 3 日大阪管区气象台発表）。

表 1 穂いもち巡回調査結果(8 月第 3～4 半旬)

地域	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率 (%)	66.7	41.7
	発病株率 (%)	13.3	8.9
	発病葉率 (%)	0.48	0.31
南丹	発生ほ場率 (%)	88.9	37.9
	発病株率 (%)	20.4	7.4
	発病葉率 (%)	2.14	0.34
中丹	発生ほ場率 (%)	33.3	31.7
	発病株率 (%)	1.3	3.7
	発病葉率 (%)	0.04	0.15
丹後	発生ほ場率 (%)	66.7	34.4
	発病株率 (%)	8.9	4.7
	発病葉率 (%)	0.56	0.22
府全体	発生ほ場率 (%)	66.7	36.1
	発病株率 (%)	11.7	6.1
	発病葉率 (%)	0.91	0.26

※発病葉率：上位 2 葉の発病率。

表2 穂いもち巡回調査結果(8月第3～4半旬)

地域	項目	本年	平年値
山城	発生ほ場率(%)	0.0	10.0
	発病株率(%)	0.0	0.4
	発病穂率(%)	0.00	0.02
南丹	発生ほ場率(%)	11.1	20.0
	発病株率(%)	0.4	2.3
	発病穂率(%)	0.02	0.16
中丹	発生ほ場率(%)	0.0	15.0
	発病株率(%)	0.0	1.1
	発病穂率(%)	0.00	0.13
丹後	発生ほ場率(%)	0.0	7.8
	発病株率(%)	0.0	0.4
	発病穂率(%)	0.00	0.04
府全体	発生ほ場率(%)	3.8	13.6
	発病株率(%)	0.2	1.2
	発病穂率(%)	0.01	0.10



写真 葉いもち(左) と 穂いもち(右)

7 防除上の留意事項

- (1) 上位葉へ進展した葉いもちの病斑は、穂いもちの重要な伝染源となる。
- (2) 葉いもちの発生が多い場合は、治療効果を有するカスガマイシン剤(カスミン液剤等)やフェリムゾン・フサライド剤(ブラシンプロアブル等)を散布し、病斑の拡大と穂いもちへの進展を防ぐ。
- (3) 出穂後に曇雨天が続く場合には、傾穂期前後にも防除を行う。特に枝梗は出穂後2～3週間程度まで感染リスクがあるので、枝梗いもちの発生に注意する。
- (4) 防除の際には、周辺ほ場に農薬が飛散しないよう十分に注意する。
- (5) 農薬の散布にあたっては散布適期を確認し、周辺作物に飛散しないよう十分注意する。また農薬の選択にあたっては、農業改良普及センター、農協等と相談し、使用時期(収穫前日数)や使用回数等の使用基準を遵守して適正に使用する。

なお、最新の農薬情報は農林水産省ホームページの「農薬登録情報提供システム」を参照のこと (<https://pesticide.maff.go.jp/>)。

<参考> 京都府推奨品種の中生品種：京の輝き、祝、新羽二重糯
 〃 晩生品種：ヒノヒカリ

用語解説

出穂期：全茎の40～50%の穂が出たとき。

穂揃期：全茎の80～90%の穂が出たとき。

傾穂期：穂揃期の約1週間後。穂が傾きかけたとき。